

環境まちづくりをめざす

あじえんだ

夏
2001

第8号

2001年7月31日発行

みやこ
京
のアジェンダ21フォーラム
ニュースレター

「アジェンダ21」とは「21世紀への課題」という意味。
「京のアジェンダ21フォーラム」では、市民・事業者・行政が力を合わせて
環境と共生できるまちの姿を描いていきます。



巻頭特集

KES 本格始動 4つのパイオニアに聞く

KESの認証を初めて取得した4社にインタビュー、取組の内容を紹介

アジェンダ見聞録

韓国ソウル市 ローカルアジェンダ21への取組

アジェンダNOW

地域における環境活動の交流 ~ 環境まちづくり交流会 in 京都より ~
都心のエコ交通プラン中間報告

アジェンダフォーラム会員紹介 ひと・まち・きたる

小泉 光太郎 さん

未来に残したい...
京の知恵

よみがえれ開襟シャツ

健康生活からも地球環境からも、

ともかく亜熱帯であるという

気候風土に徹して、

なおかつ

礼節ある服装を考えることは

とても未来的でもありますが、

この辺は着物の世界や

京都のお婆ちゃんおばあちゃんの知恵にも

なにか良いものがありそうです。

撮影 山口洋典

協力 麻小路

*詳しくは5ページをご覧ください

Q. 二和電気さんではどんな製品を製造されているのですか。

主に電源装置、非常用電源装置。停電時に備えて、バッテリーに電気を蓄えておくための交流を直流に変える整流器と、それを使用するときにもう一度交流にするためのインバータ、そういうものをセットにして非常用電源装置といいます。病院や銀行、工場などで停電が起きたときにはこのシステムを使って一時的に電気を供給し事故を未然に防止します。京都市ですと、上下水道、地下鉄など多くの公共施設で使用されています。最近では携帯電話の電波基地局などの電源もやっており、目立ちませんが社会の基盤を支えています。

Q. KESに取り組み始めたきっかけは？

会社としても環境にやさしい企業になっていかないと、企業自体が存続していかなくなるんじゃないかという社長の

先進的な方針に沿って、ISO14001を検討している中で、KESの試行企業を募っているという話を知りました。ちょうど主要取引先の日本電池さんがISO14001がKESを取得している会社から優先的に購入するグリーン調達を始めるという話があり、また私たちも環境について勉強し始めようかというタイミングでもあったので、試行企業として手を挙げました。東京に本社、所沢にも京都の人員の倍くらいの事業所がありますが、まず京都でチャレンジして、環境への第一歩を踏み出そうじゃないかという気持ちでしたね。

Q. ISO9001を取得しているということですが、KESに取り組みうえで関係はありましたか？

基本的にPDCA（Plan - Do - Check - Action）の順序で目標をたてて継続的に品質を向上させていくという流れが判かっていましたので、比較的やりやすかったですね。テーマは違っても、各改善項目に関して会社の目

標と現在の状態とを知らせて、みんなで考え直していく、ということが重要ですから。毎月会議の席で、前の月の結果を報告することと、みんなが見える所に目標値に対して現在どういう状態にあるのかをグラフ化して掲示しています。工場自体は設計と組立てが主なので環境負荷としては軽いと思います。そのなかでは電力消費が比較的多いのですが、試験方法を工夫することで休日にまたがる製品のテスト運転時間を減らそうと計画しています。省資源という面では設計と製品に関連した成績書の作成のために紙の使用量が特に多いので、書類の電子媒体化・作成枚数の削減・使用済用紙の裏面活用することで5%削減を達成しました。

Q. KESという認証を受ける値打ちはどこに？

当社にとっては自社名が市場に流通しているわけではありませんから、その意味でKESやISOなど第三者機関からの認証は、大きなライセンス（ブランド）を得られると思います。

京都を創る 環境都市 アジェンダと創る

KES 本格始動 4つのパイオニアに聞く

Q. 今回、認証を受けた4社の中で、京都コクヨさんだけ製造業ではありませんね。実際にどんなお仕事をされているのですか？

環境商品を積極的に販売しており、自治体の環境フェアなどにも賛同して商品を展示させて頂いたりしています。普段は得意先、小売店に提案営業を行い、卸販売するのが私たちの仕事です。ですからモノをつくっているわけでもありませんし、流通も別会社のため輸送場で発生するようなゴミ・段ボールも発生しません。

Q. KESに取り組みきっかけはどこにあったのですか？

営業活動で環境配慮型商品の提案させてもらったりしていて、外に向けてはグリーン購入の取組を促進しよう

としている形ですが、当社の中では具体的な取組がこれまでなかったんです。それとコクヨ本社がISO14001の統合認証を受けたことも背景にあり、当社もそのことで周りから質問を受けたりするようになりました。そんな折に、KESを通じて京都で環境の取組をする事業者や団体を増やしていきたいというお話を聞いて、それなら我々も参加して本格的に取り組みもうということではじめたんです。

Q. 実際に取り組みされている内容とKESをとって良かった点は？

ほんとうに単純なことから始めました。とりあえず、人数を集めてプロジェクトチームを立ち上げ、そのメンバーで手分けしてどんなことが環境に影響を与えるのかの項目をピックアップする作業から始めました。ただ、

営業一本の会社なんで、電気やガス、あと営業車の燃費、そういったことくらいしか出てこないんです。ほとんど家庭と同じですが、それに環境商品の売上げを加えるという形です。

KESを取得したことは社員の自信につながりました。営業先にも認証書のコピーをお見せしています。KESが広まって地域の事業者の環境意識が高まれば、環境商品の商売にもプラスになることを期待しています。

Q. 子会社や関連会社、取引先に環境に配慮した取組を要求する動きについては？

最近、ありますね。環境に関しては本体がそういう動きをしているので、見習って当然という認識です。得意先にも環境商品のお取扱いを積極的にお願ひしたり、KESの取得を働きかけたりしていきたいですね。事業者同士が環境で刺激を与え合うことも必要でしょう。

Q. まずは旭銘板さんがKESに取り組むようになった経緯をお聞かせください。

当社はエッチングという技術をつかって銘板を造っています。酸で金属を溶かすため重金属を含んだ強酸廃液がでます。そんなこともありまして、昔から環境影響については周辺への説明も含めてしっかりしてきたつもりです。かつて、工業排水が問題になったときも旭銘板が一番に低利の融資を受けて実践してきました。

今回のKESに関しては、日本電池さんから試行企業としてやっていかないかというお誘いを頂きまして、みんなとの相談の中で、私たちが今まで意識として持っていたものを表に出し、御指導頂きながらクリアしていこうという決断をいたしました。

Q. なるほどトップの意志が明確だったんですね。ところで環境負荷として一番気になる強酸廃液はどう処理されているんですか？

コストを当社が負担し、産業廃棄

物として処理しています。タンクローリーで新液をもってきたときに廃液をもってかえてもらっています。廃液は再利用も行っています。当社のように金属を貫通させる酸度が必要なところでは使えなくても、他では十分使えるのです。

Q. 現場の自主性を引き出すためにはどんなことをしてらっしゃるのですか？

当社には、公害防止では国家試験の免許を持った社員がいますが、社内の環境の専門スタッフとしては西本君が大活躍してみんなの動きをうまく引き出してくれたことが大きかったですね。彼は個人でもアジェンダフォーラムの方に関わってくれていて、旭銘板には欠かせない存在となっています。

組織としてはQC (Quality Control) サークルをもとにして環境委員会を立ち上げました。この社内サーク

市民の公募により決定したKESのシンボルマークをもとに、旭銘板さんが自社の技術でネームプレートを試作。

ルと環境管理活動を連動させているため、みんな楽しく意欲的に取り組んでいます。ここを通して従業員から環境改善の提案を汲み上げる努力も行っていきます。

Q. KESに取り組まれて良かった点は？

取引銀行の頭取から祝電をもらったりというの大きな励みになりました。社会から評価を受けたことで、従業員みんなが誇りをもつことができ、社内の雰囲気も明るくなりました。審査やNHKの取材などで「自分もちゃんとせなあかん」という良い緊張感をみんなが共有できたこともよかったですね。



京都独自の環境マネジメントシステムであるKES (京都・環境マネジメントシステム・スタンダード) が本格スタートし、この5月31日にここに紹介した4社が初めての認証を取得した。先駆者としてKESに取り組んだいきさつや、よかったこと、これからの課題などについてお話をお聞きした。インタビューからも、比較的容易に中小企業が環境に取り組めるKESの大きな有用性は明らかだ。KESの輪がさらに広がることを期待したい。

聞き手：事務局コーディネーター 能村聡、編集チーム 宮田晃一郎

Q. 今回、KESの取得に際して環境影響を減らすために工夫したところはどこでしたか？



株式会社 新岩村電機製作所の橋本社長。KESにはまず、トップの明確な意志とみんなで取り組むという姿勢が大切。

当社では受電配電設備を製造しています。今までは部品に使う電線のなかで、規格外の中途半端なものはそのまま廃棄にまわしていたんですが、まだ使えるものは分けて再利用するようになりました。また、ポルト・ナットも製品として納めるものはもちろん新品なんですが、仮組用のものにはこれまでムダに廃棄されていた中古品を再利用しています。こうして徐々に自分の工場に合うような形で環境配慮をしていったら、コストダウンにもなっていくと思います。

Q. KESに取り組むうえで大切なポイントは何？

まずはやる気を表明することですね。朝礼とか直接社員と接する場で話すようにしましたし、QC活動とも連動させました。とにかく一人でやろうと

せずみんなでやるということですね。枠組みと方針をリーダーが示して、現場の創意工夫、自発性を活かすこと。やはりみんな心の中ではごみを減らしたいとか、きれいな工場でありたいとか思っているのですから。本気でやれだすと若い社員が一生懸命やってくれたりしますね。ちょっとの意識でこれほど変わるかというくらいごみも減りました。隣接する中学校にもいい影響を与えられたと思います。

Q. 製品で環境配慮しているところはありますか？

塩素・ハロンを含まない被覆材を使った電線でエコ電線というのがあります。燃やしても環境にダイオキシン発生などの悪影響を与えないということで、公共調達などの現場で要求されるケースが結構でできましたね。

韓国 ソウル市 ローカルアジェンダ 21 への取組



2001年2月、環境省委託事業として(財)地球・人間環境フォーラム(GEF)により、韓国ソウル市で日韓の地方自治体を対象にローカルアジェンダ21(LA21)に関する初めてのワークショップが開催されました。ワークショップは、アジア地域でのLA21の普及促進、情報交流などが目的で、日本の水俣市や豊中市、韓国のソウル市や済州市などの行政職員をはじめNGO関係者ら140名が参加し、LA21を取り入れた持続可能な地域づくりについて議論しました。今回はGEFの大河内淑恵さんに、ワークショップでの報告に基づいてソウル市のLA21を紹介していただきました。



水俣市、飯田市、長岡京市など日本からは6自治体に加え、NGO代表として環境市民も参加

韓国とソウル市のローカルアジェンダ21

中央集権の体制が歴史的に長かった韓国ですが、地球サミット以降の地球環境問題への関心の高まり、そして1995年の初の自治体首長公選を経て、地方分権の問題とともにローカルアジェンダ21への注目は一気に高まっています。現在、16ある広域自治体(日本の道府県・政令指定都市にあたる)のすべてがLA21を策定済みであり、232ある基礎自治体(日本の23特別区、政令指定都市区および市にあたる)でも、100以上がLA21をスタートさせています。

1,200万人の人口を抱える首都ソウルは、8つの分野、30の目標、426の行動計画からなる「ソウル緑のビジョン21」を1997年に策定し、取組を進めています。大気・水・生態系などの自然環境に加え、文化・福祉などの社会環境もアジェンダの対象領域として明記されており、社会全体の持続可能性に配慮したものになっています。

現在は「緑のソウル市民委員会」を中心に、企業実践団(ソウル商工会議所会員企業で構成)、市民実践団(市内25の特別区を通じて結成)、公務員実践団(市の職員で構成)、子供実践団などが、互いに連携しながら取組を進めています。

一般市民へ広める工夫

一般市民への広報活動は、どの自治体でも頭を悩ませている活動ですが、ソウルでは、初期段階(1998年)で、まず市内150の小・中・高校を対象に

青少年教育プロジェクトを実施しています。また、1999年には地下鉄車両広告を通じて広く市民へ呼びかけを行ったほか、2000年には、テーマソングを作っています(歌詞は一般から公募)。

LA21の具体的な推進方法の一つとして、市民団体や環境NGOからLA21実践プロジェクトのアイデアを募り、そのプロジェクトに対し市が予算を支援する「市政参加公募事業」があります。2000年度は、34のプロジェクトに対し総額5億ウォン(約5,000万円)が支援されました。環境教育、ボランティアの養成、ごみ減量、水質汚染の監視、生態系モニタリングなど、1997年以来174の様々な実践的プロジェクトが生まれ、活動の輪が広がっています。

住民参加で実施されるプロジェクト

吉洞(キルドン)自然生態公園(江東区)のプロジェクトでは、「生態保全市民のつどい」が中心となって、モニタリングと教材開発を行いました。活動の支援金は2,700万ウォン(約270万円)。季節ごとに移り変わる公園を素材に教材を開発し、公園を訪れる観光客のための教育プログラムを実施したそうです。教育プログラムは7ヶ月間で終了しましたが、プロジェクトを通じて公園周辺に住む住民を中心にインタープリターを募集・養成したことが、結果として今後の公園運営・管理に参加できる環境活動家を育てたケースとして紹介されました。

また、冠岳区鳳川洞(クワンアックポンチョドン)のまちづくりプロジェクトでは、「冠岳住民連隊」という地域グループが中心となって、「クッサボン」という地域にある小さな山を核とした「故郷を思い出させる緑のまち」づくりが進められました。支援予算は1,300万ウォン(約130万円)。地域住民の環境教育の場として「みどりのまちの学校」を開設、クッサボンの四季の景色モニタリング、自然文化祭の開催などに取り組みました。地域通貨も導入しながら住民の連帯を深めたようです。スタート当初は住民の反応もあまり良くなかったようですが、今では多くの住民が積極的に参加するようになり、自分たちの生活の質、環境と調和した持続可能なまちづくりへの意識が芽生え、「まちづくり支援センター」の設立にまでつながったようです。

LA21を評価するための指標づくりも進む

2000年2月のアジェンダ改定の際に、8つの分野についてその達成度を測るため、27の指標が設定されました。例えば、「隣人と連帯するまち、ソウル」を目標に掲げる福祉分野では、「高齢者の雇用率」「労働人口における女性の割合」等が指標として設定されているのが興味深いところです。今年から、市民委員会に設けられた小委員会において年1回アジェンダの評価・点検が行われ、結果はインターネット等を通じ広く公表されるようです。

(財)地球・人間環境フォーラム(GEF)
大河内淑恵

財団法人 地球・人間環境フォーラム(GLOBAL ENVIRONMENTAL FORUM)1990年に設立。環境問題に対する科学的研究や政策研究を進める一方、環境情報の普及、環境保全活動や国際的な環境ネットワークの支援などの活動を通して、さまざまな環境問題の解決に向けて取り組む。

Q 夏でもネクタイ・背広に身を固めているビジネスマンはつらいです。暑いからといってクーラーをきかせれば、室外機からは暖かい空気が排出されます。服装の工夫で良い夏の過ごし方はできないものでしょうか。(右京区Yさん)

A 営業マンは夏でもネクタイ・背広を手放せず、外へ出て大汗をかくと、体力を消耗してクタクタになり、深ーく夏バテが進行する、という話を昨日、聞いたばかりでした。真夏のネクタイ・背広は難行苦行です。お察しします。

しかし、そもそもは、ネクタイ・背広をビジネスマンの制服と決めつけるところが間違いです。日本には和服があるから、京都市長のように和服を着ればいいじゃないか、といっても、それも無理です。活動的ではありません。ネクタイ・背広でもない、かといって和服でもない、それらに代わる活動的で品格のある衣服を考えればいいのです。

アパレルデザインというと、すぐパリやミラノに目が行きますが、そうではなくて、日本の現在の生活の中から機能を重視した、ふさわしいデザインを考えればいいのです。

前からこういうアイデアをぶちあげていますが、誰も見向きもしないので、仕方がないから自分で作ってみることにしました。この夏、それを着て耐暑効果の実験を行います。背広の上着を半袖にした羽田ルックより効果のあること、一目瞭然です。新しい日本の夏の民族服の誕生、新時代のころもがえも可能でしょう。愉快、ゆかい。

(中村泰人 熊本県立大学、前京のアジェンダ21フォーラム専門委員)

其の八、

よみがえれ開襟シャツ

暑い夏がまたやってきた。そこで家でも職場でも冷房をガンガン効かせて、しかし外に出れば36度の亜熱帯。夏バテの真犯人は毎日この10度以上もある温度差なのです。

京大の環境工学教授の冷房排熱による都市の気温上昇問題についての研究では、冷房でのエネルギーは暖房の4倍も必用になるそうである。ついにこの方は「亜熱帯にふさわしい服装をするしか解決の道はない!」との結論に達せられ、なんと「職場でも礼儀正しい亜熱帯ファッションの開発」というずいぶん畑違いの分野に取り組まれている。

公の場にも合う亜熱帯の服もなかなか難しいけれど、ひとつここの「開襟シャツ」はいかががでしょう。ただしヨレヨレの色物はいけません。あくまで純白でアイロンもピシッと人目にも涼しく爽やかであることが条件です。かつては京都市電の運転手のそれであり、今も南回り路線のパイロットや東南アジアの閣僚要人が愛用しており、その昔の日本海軍士官の南方制服もこの開襟シャツでした。

健康生活からも地球環境からも、ともかく亜熱帯であるという氣候風土に徹して、なおかつ礼節ある服装を考えることはとても未来的でもあります。この辺は着物の世界や京都のお婆ちゃんの知恵にもなにか良いものがありそうです。

恩地惇

(会員、環境デザイナー・
(株)GK京都取締役社長)

写真 山口洋典

協力 麻小路



地域の環境活動の現在と可能性

～京都市環境月間行事「環境まちづくり交流会 in 京都」からの報告～

6月22日～24日に開催された「環境まちづくり交流会 in 京都」では環境地域活動に取り組む市内の様々なグループが集まり、活発な交流が繰り広げられました。

東京都北区富士見橋エコー広場館を拠点に住民主体の環境活動を進められている竹腰里子氏（東京都北区リサイクラー活動機構代表）の基調講演には、環境にやさしい地域づくりの拠点施設として平成14年春開所予定の「京都市環境学習・エコロジーセンター（仮称）」にとって参考になるアイデアがたくさんありました。また、5つのテーマでそれぞれ経験交流し、お互いに励まし合うこともできた分科会がきっかけとなって新たな協働事業が生まれていく可能性も出てきました。

今後、環境をテーマとしたコミュニティづくりが、住民が主体となり、行政とのパートナーシップでさらに広がることが期待されます。



基調講演では、住民運動に関わってきた方々、行政、資源回収の専門業者とのごみを通じてのパートナーシップの仕組みづくりから、「エコー広場館」開設までの活動の経緯が紹介された。環境活動を地域に広げていくための住民の活動拠点となっているエコー広場館では、リサイクルを切り口にしたコミュニティ作りが進んでいる。

<分科会1> 農家・事業者・消費者において「食の循環」はありえるか？ ～地域での活動の事例から～

北区上賀茂で農業を営む森田良彦さんは、消費者とEMポカンを使った有機農法をした経験から、「難しい、きちっと堆肥化されていないものすごいにおい。近所の人にいやな顔されて…」と今では岩倉の山間に実験農園を作っているなど、楽しい語り口で報告。立命館大学産業社会学部深井ゼミの鈴木道人さんは、45軒の宿泊施設で廃棄物の30%を占める厨芥、残飯の処理についての調査報告、農をあじわう塾の藤原和幸さんは、学生から70代の人まで30名で畑を借りての農業体験や、現在はあまり使われていないちびっこ広場に野菜やハーブを植える活動を紹介しました。参加者の間では活発な交流があり、それぞれ目的意識をもって積極的に活動していますが、まだまだ問題提起の域を出ていないようです。今回の議論をしっかりと分析して、農業者・市民・学者・事業者・行政の役割をプログラム化し、具体的な実験を通して、食の循環を証明していくことが必要だと思いました。

（京都消費者団体連絡協議会 筋 祥子）

<分科会2> コミュニティのエコ交通～市民が進める交通まちづくり～

市内で地域レベルの交通課題について取り組む4つのグループの報告から「交通まちづくり」を主体的に担おうとする市民の動きが見えてきました。報告後、共通項である公共交通のあり方について議論しました。交通問題は市民（利用者）からは手の届きにくい印象が強く、「陳情」あるいは「抗議」の二者択一の行動では、これまで事業者からの良好な反応は期待し難いものでした。しかし、昨年、100円循環バスの成功例からも見えるように、地域住民の側から、行動で示して交通事業者を応援する形のパートナーシップを形成すると、状況が改善する可能性も見えてきました。会の最後に京都市全体の公共交通を発展させる方策について引き続き考える場を京のアジェンダ21フォーラムで立ち上げていこうということになりました。

（京のアジェンダ21フォーラム事務局 能村聡）

<分科会3> 地域が協働して自然エネルギーを広める

温暖化対策を進めるうえでエネルギーの問題は避けて通れないものであり、地域の自然エネルギーを活用することが不可欠です。京都でも市民主導の自然エネルギー普及への取組が始まっています。平成12年度の京のアジェンダ21フォーラムパイロット事業となった「きょうとグリーンファンド」の取組は、地域市民から寄付を集め、準公共的な施設に太陽光パネルを設置するもので、3月には法然院に第1号機が設置されました。NPOの先進的取組がフォーラムとその会員につながり具体的な成果となった例です。この他、雨水の利用、自然エネルギー学校なども報告され、京都で自然エネルギーを普及させるための課題やアジェンダ21フォーラムでの可能性を話しあい、「情報の共有、自然エネルギーに関する教育、楽しく体験できる企画が必要、地域主導のエネルギー政策の導入」などの意見がだされました。

（気候ネットワーク 田浦健明）

<分科会4> 環境を大切にしたい買い物（グリーン購入）と事業活動

事業者の環境対策をどう進めていくかが大きなテーマでした。特に京都のような中小企業の多いところでは工夫が必要です。日本電池津村昭夫さんからは、環境マネジメントが経営面から見ても資源節約の促進など有意義なものであること、旭銘板西本雅則さんからは、中小企業でも取得しやすい環境マネジメントの認証制度＝KESの取得による社員意識の変化、京都ココヨ高橋伸年さんからは環境を語らないと営業活動ができなくなってきたことなどを紹介してもらいました。また環境市民堀孝弘からは「がんばっている企業を応援する市民運動もある」とことを伝えました。

互いの活動紹介にとどまらず今後の具体的課題も議論する中、グリーン商品市場の京都地域でのさらなる成長が必要であるとの認識から、自治体も巻き込んだ「京都版グリーン購入ネットワーク」結成の話が出てきました。環境意識や対策に優れた企業が有利になる、特典を得る仕組みづくりをすすめる必要があると思います。参加者の反応を見ると、それも決して難しいことではないと感じました。

（環境市民 堀 孝弘）

<分科会5> 地域のタカラを見つける、生かす、発信する ～魅力あるまちづくりとエコツーリズム～

エコツーリズムWG（ワーキンググループ）の取組、エコミュージアムWGの「大阪平野区での調査活動報告」や、12年度のパイロット事業として取り組まれた「京都における自転車観光プランの提案」と「京都エコツアーモデルプラン作成事業」が報告され、情報伝達や意見交換の機会となりました。しかし、市民や事業者がどういったスタイルで取組に参加できるのか、このWGが協働して実現を目指す環境調和型都市や地域の姿とモデル事業、調査がどのように関連し、その実現に至るのか、イメージしづらかった人が多かったのではないのでしょうか。今後、取組をすすめる上で、まだ十分ではない市民や事業者の幅広い参加を募り、推進のための力とするには、関わり方や役割が具体的にイメージしやすいエコミュージアムや宿泊施設のエコ化、パイロット事業等の調査、実践活動の交流会など、取組への思いや提案、ビジョンが交換できる機会を増やすことも必要だと感じました。

（宇多野ユースホステル所長 高田光治）



写真：分科会2の様子

*分科会報告は各コーディネーターからいただきました。



ワーキンググループレポート

～京のアジェンダ21フォーラム参加の窓口～

「京のアジェンダ21」の重点取組を進めるため、ワーキンググループ（WG）を設置して活動しています。WGの会議、行事等の予定については、ホームページと月刊事務局通信をご覧ください。お問合せはフォーラム事務局まで（8p参照）

ライフスタイルWG

地域での環境活動を促すプログラム、グループ、人づくりを進め、仕組みをつくり、市民生活、地域コミュニティにアジェンダの取組を広めていきます。

企業活動WG

京都版環境管理認証制度「京都・環境マネジメントシステム・スタンダード（KES）」、環境にやさしい商品の購入（グリーン購入）の推進などで環境にやさしい企業を応援します。

フォーラム新体制スタート 第1回総会を開催

「環境まちづくり交流会 in 京都」と合わせて、京のアジェンダ 21 フォーラムの総会を開催しました。5月から施行した改定規約により新設され、今回が初めての開催となった総会では、昨年度の事業報告及び事業決算、今年度の事業計画及び事業予算が承認されました。また、平成13年度～14年度の役員が選出され、新体制でのスタートを切りました。

オブザーバー参加を含め多数の方々に参加いただき、会員からの提案により、小泉総理大臣に対し京都議定書早期発効への取組を求める要望書を送ることを決定、その他「世界水フォーラム」への参画、リオプラス10へのアジェンダの取組報告等の提案も参加者から出されました。



京都議定書早期発効へ向けての要望書を送りました

次の要望を小泉総理大臣に伝えました。

- (1)日本の早期批准の意志を速やかに表明し、批准のための国内制度を整備すること
- (2)再開 COP6 において京都議定書の細目についての合意形成が完了できるよう公正で建設的な議論をされること

京のアジェンダ 21
都心のエコ交通プランの
中間報告

環境にやさしい歩いて暮らせるまちをめざして

～アジェンダ都心交通改革の提案～

昨年10月より、京のアジェンダ21フォーラム交通ワーキンググループで検討してきました都心のエコ交通プランのキックオフレポート（中間報告）を「環境まちづくり交流会 in 京都」の第2分科会で発表しました。その概要をここにご紹介します。現在、中間報告へのご意見を求めています。必要な方は郵送しますので、事務局までご連絡ください。皆様からのご意見をもとにビジョンを精査する作業を進めていき、この秋に完成発表し、キャンペーン活動をスタートします。

なぜ都心を改革するのか

都心部からの交通改革には次のような意義があります。

歩く生活を基盤に成熟してきたこの都心の魅力を引きだして、再び21世紀にふさわしい人に優しい都市の暮らしを獲得するための第一歩とする。

知名度の高いこの地域での都市改革は国内外への反響が非常に大きく、同様の各都市に勇気を与えるとともに、京都に新しいエコツーリズムをもたらすことができる。

市民の大多数が集まる都心から交通需要管理（TDM）に取り組むことで、市全域を「環境にやさしい交通体系」へ改革していく突破口とする。

都心の歩いて暮らせる街づくり 4つの目標

都心にすべての人々にとってやさしく、安らぎのある魅力的な歩行空間をつくる。

自動車抑制によって商業・観光が飛躍的に賑わう都心活性化を可能にする。

歩行者および物流を支援する公共的な都市の装置を充実させる。自転車と共生できる都心のまちづくりを進める。

都心の道路空間を改善する対策

(1)22m級幹線路の改善策

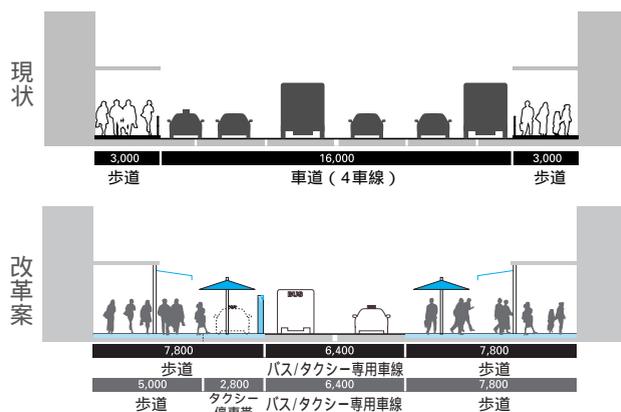
中心部の河原町通と四条通はトランジットモール化し、車線4車線から、歩行空間を拡張し、車道は公共交通、タクシー、物流車両の専用の2車線とする。

(2)6m級細街路の改善策

京都らしさの道として自動車横断禁止帯を設置し、50～80%に及ぶ過交通を削減することで歩行者が主役の魅力的な街路にする。

【幹線路】

広がった歩道に生まれる楽しさ、豊かさ、賑わい。100円循環バスは横のエスカレーターとして歩くまちの暮らしを支える都心の装置に発展。



【細街路】

伝統的京都の景観とマッチし、歩行者が主役であることを表現する路面デザイン。超小型の共同配送パブリック電気カーが都心の商業を支援。



ゼロエミッションWG

「エミッション」とは「廃棄・排出」。廃棄物を減量し、資源を循環させるシステムの提案を検討します。

現在、独自の活動は行っておらず、企業活動WGに協力しています。

エコツーリズムWG

環境と調和したサービス、施設、交通機関のもとで提供できる京都の観光を探っています。京都エコツアープログラム集も作成中です。

環境にやさしい交通体系の創出WG

公共交通や自転車の利用の促進、都心部のエコ交通システムづくりなど、京都において環境と人にやさしい交通体系の創造をめざしています。

エコミュージアムWG

エコミュージアムとは「地域まるごと博物館」。地域に元からあった「モノ」「コト」を、住民自らが発見し、生かす、まちづくりの仕組みを探っていきます。

ひと
まち
きたる

小泉 光太郎 さん

待ち人来る、ではなく「ひと・まち・きたる」。
京のアジェンダ21フォーラムの会員で、積極的に活動
されている方を紹介していきます。



生活文化を学び・体験
する「町家塾」の
様子



京都市中京区に生まれ育つ。京都麻業株式会社代表取締役。麻100%の物のみを取り扱う麻の館「麻小路」の経営のかたわら、四条通に面した「四条京町家」のオーナーとして、「町家塾」を主催している。その町家にお邪魔してインタビューさせて頂きました。

心地のよい空間ですね。

この家が壊されようとしてた。それはあかん、と買い取ったんです。潰すんは一日ですよ。もう建てられへんのに。この家は90年生きてきた美しさがありますやろ。もともと通りを隔てて鋼材卸商の母屋があって、そのご隠居さん用に建てられたもんでした。

ご隠居さん用なのにお商売用の造りなんですね。

それが京都人のしたたかさ。いつどうなるかわからへん。隠居してもちろんとお商売は出来るようにしてあったんです。いわゆる表屋（おもてや）造りです。

こんなにじっくり見せて頂くと嬉しいですね。

なかに入って見ると、季節季節の京都の暮らしの工夫がようわかりますやろ。京都人は冷たいやら何やらいわれてますけど、家でも人でも、よう知らんと物いわれるのん腹立ちますやろ。今まで京町家をじっくりと見せてもらう場所がなかったんですわ。そのためにこの町家は「かまどの灰まで見てもらう処」にしよと思たんです。

それが「町家塾」につながっていくんですね。

そうですね。今、確かに町家が見直されてきてる。そやけど、外側だけ残して、中は洋風、扱

もんも洋風。なんのことやら、わかりませんやろ。それやったら、ただのパフォーマンスですわ。

建物が残っても、生活が無かったら意味がない。中に住んでる人間の生活文化も一緒に知ってもらわんと。町家塾で、みんなで七輪で秋刀魚焼いて食べたんです。若い人はそんなんしたことない。外は真っ黒、中は生ですわ。年いったもんは上手に弱い火で調節しながら焼かざる訳ですわ。こうやって伝わっていったんですやろ、文化って。体験して、伝えて……。そんなんで、みんなで、わいわいしながら、すぐに時間がたちますわ。

最後に、今後の「町家塾」の予定とメッセージを。

町家って、つぶしてもみんな土に帰るんですわ、環境にやさしい。そやから、人にもやさしい。いうたら、自然と共存。根本から「エコ」なんですわ。いろんなこと、もっと知ってほしいですね。季節の行事も含めて。

7月には「町家で迎える祇園祭」という企画もみんなに喜んでもらえましたよ。8月、9月も京都の旬を楽しんでもらおうと思っています。

どうもありがとうございました。

(聞き手・撮影 / 千葉有紀子)

京のアジェンダ21フォーラム入会のご案内

【年間会費】

一口1,000円を単位として、会員ごとに次の口数分とします。

(1)個人会員 1口 (2)団体会員 2口以上

*会費は郵便振替または銀行振込をご利用ください。

郵便振替口座：00960-7-143508

京のアジェンダ21フォーラム

銀行振込口座：三和銀行京都支店 普通 5468383

京のアジェンダ21フォーラム

【会員の特典】

ニュースレター・各種案内資料の無料送付、ワーキンググループへの参加、主催行事への参加など

みやこ

京のアジェンダ21フォーラムニュースレター 2001年夏(第8号)

発行：京のアジェンダ21フォーラム事務局

〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上ル上本能寺前町488番地

京都市環境局環境企画部地球環境政策課内

TEL. 075-222-4037 FAX. 075-222-4039

E-mail. ma21f@mbox.kyoto-inet.or.jp

URL. http://web.kyoto-inet.or.jp/org/ma21f/

企画：同フォーラムニュースレター編集チーム

編集：佐藤桂子・竹花由紀子・千葉有紀子・松田直子・水口保・宮田晃一郎

デザイン・レイアウト：藤本芳一・山口洋典

このニュースレターは古紙100%の再生紙に大豆油インクを使用しています。